

## 株式会社 羽車

付加価値の高い  
封筒や紙製品を製造、販売

## 事業内容

## 付加価値の高い商品でニーズに応える

同社は主力の封筒をはじめカード、便せんなどの紙製品を製造、販売する。素材やサイズ、形状、デザインにこだわった1,000種類以上の商品を扱う。

杉浦正樹社長は「当社は付加価値の高い商品を扱っている」と説明する。化粧品やアパレル、自動車のダイレクトメール（DM）などイメージを大切に企業向けの商品が多く、さまざまなニーズに応える体制を築いている。

## 多彩な加工技術も強み

クラフト紙やカラー原紙はもちろん、コットンペーパーや和紙、トレーシングペーパーなど独自に抄造するオリジナル素材を揃える。また封筒生産機と印刷機を中心に50台を超える機械を擁し、あらゆる素材の商品に印刷できるのも特徴だ。

印刷表面を凹凸で表現するエンボス加工や光沢のある箔押し加工、アナログ感を演出できる活版印刷、紙に独特な質感が生まれるロウ引き加工といった多彩な加工技術も強みとなっている。

## 補助事業

## きっかけは紙による切り傷

封筒の紙の断裁面はナイフの刃のように鋭利で、封筒を製造する従業員や商品を使う消費者は時に手の指を傷つけてしまう。かねてから杉浦社長は、紙を扱う際の切り傷を防ぎたいと考えていた。手の指を傷つけず、人に優しい安全封筒を商品化しようと約5年前から社内で検討が始まった。

試行錯誤の末、断裁面を波線にすると決めた。手に触れる部分を波線にすれば通常は手の指を傷つけずに済むうえ、封筒のデザイン性も損なわずに済む。

## 設備導入によって波線カットが可能に

封筒の生産方法には巻取りロール紙をカットする輪転製袋と、シート状の紙を型抜きしてから折り畳む枚葉製袋がある。現状の設備では、どちらの生産方法も断裁面を直線から波線に変えることは不可能だった。そこで「ものづくり補助金」を活用し、波線カットに対応できる自動平盤打抜機を導入した。

## 具体的成果

## 実験を重ね最小限度の波線カットを

生産数量の多い長形3号（120mm×235mm）や角形2号（240mm×332mm）の封筒には輪転製袋機を使い、これらのサイズ以外とオーダー品には枚葉製袋機を使う。自動平盤打抜機の導入により、両方の生産方法で従来の直線カットから波線カットに変えることが可能となった。

紙の断裁面の波線は大きすぎるとデザイン性を損ね、小さすぎると手触りが滑らかにならない。デザイン性と手触りを両立した最小限度の波線カットを見出すまで実験を重ねた。

## 十数種類の封筒を販売

輪転製袋機については熟練技術者をプロジェクトリーダーに起用し、社内で改良に取り組んだ結果、ロール紙から紙を切り離す断裁面を波線に変えることに成功。枚葉製袋機については新たに自動平盤打抜機を導入するとともに、オリジナルの波線刃の作製を刃物業者に依頼した。これらを使った紙の型抜きにも成功した。

両方の生産方法を使って、断裁面を波線カットした封筒は十数種類で販売を開始。安全封筒や波線刃と呼ぶのは美しく感じられないこともあり、今後は「リップルカット」の名称を使って広めていく計画だ。

## 今後の戦略

## 「リップルカット」を“新・常識”に

杉浦社長は「社員を大切にしようとしている会社には『なるほど』と言ってもらえる。市場はあると思う」と、「リップルカット」に手応えを感じている。

現在は一部の商品にとどまるが、今後はリップルカット採用の商品数を増やしていく考えだ。将来は同社の封筒すべてに採用する計画だ。このため今後5—6年かけて機械の改造や設備の更新を行い、リップルカットに対応できる体制を築く。杉浦社長は「何も言わなくても、いつの間にか『リップルカット』に替わっていた」とさりげなく同社の封筒の“新・常識”にしたい考えだ。

## 海外市場も見据える

通信販売の市場が成長するなか、サンプル送付目的の宅配便などで封筒を使用する機会が増えている。今後はこうした小口貨物で使われている封筒の需要も開拓する。また国内市場にとどまらず、メッセージカードやその封筒を多用する欧米をはじめ海外市場も見据えている。杉浦社長は「『リップルカット』の封筒は日本の特異なニーズに応える商品ではなく、万人にとって必要なものだと思う。海外でも通用するのでは」と期待する。



新たに導入した自動平盤打抜機



改良した輪転製袋機



製造、販売する封筒やシート

## 株式会社 羽車

代表取締役CEO 杉浦 正樹  
〒599-8101 大阪府堺市東区八下町3-50  
TEL. 072-252-8963 FAX. 072-259-8903  
資本金/52,000千円 従業員/140名  
主な取引先/印刷会社、デザイン会社、各企業の企画部門、個人事業主など  
主な保有設備/断裁機3台、抜き加工機7台、輪転製袋機8台、平盤製袋機6台、洋形製袋機4台、印刷機33台など

主力製品/封筒、紙製品

短納期 OK 企画力 OK 小ロット OK オナーの技術 OK 生産 OK 海外対応 OK 試作 OK 連携力 OK

## 「難しい」「カッコいい」に応える

代表取締役CEO 杉浦 正樹

当社の存在意義は「難しいもの」「カッコいいもの」の相談に応えることです。高い開発力でお客さまの要望を形にするだけでなく、付加価値の高い機能やデザインを一步進めてアドバイスできる会社を目指しています。



## 取材を終えて

波線カットが  
常識になるかも

封筒で手の指を傷つけることはよくある。封筒を製造する従業員や毎日のように封筒を使う消費者は、人知れず悩まされてきたに違いない。今回の「リップルカット」はそんな悩みにスポットを当てた。従来の直線カットの代わりに採用した波線カットは「さりげなく」という言葉がしっくりくる。決して目立たないが、波線のおかげで安心して封筒に触れる。近い将来、封筒といえば波線カットが常識という時代が来るかもしれない。

<http://www.haguruma.co.jp/>